

# 吉野山で見られる植物の紹介<その他>

シダ

キノコ

コケ

その他

## アシボソアミガサタケ



【アミガサタケ科アミガサタケ属】

網目模様が特徴的な春のキノコ。フランスでは春の食材として楽しめる(モリーユ)が生食は中毒を起こす。

## イヌガンソク



【イワデンドコウヤワラビ属】夏緑性のシダ植物。胞子葉が雁の足に似ていることから。「クサソテツ」=「雁足」。冬に栄養葉は枯れても胞子葉は残る。

## エノキタケ



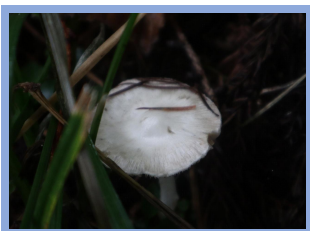
【タマバリタケ科エノキタケ属】枯れたエノキの根元によく発生することから。食卓に並ぶエノキタケはおがくず栽培され光を当てず低温で育てるため白くて細長い。

## オシダ



【オシダ科オシダ属】夏緑性のシダ植物。和名は雄大な草姿に由来。地下茎は持たず根茎から放射状に大型の葉を出す。葉柄は短い。2回羽状複葉。

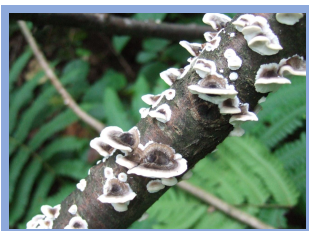
## オトメノカサ



【ヌメリガサ科オトメノカサ属】

名前から想像できるとおり比較的小さいキノコ。傘の色は乳白色。ぬめりは少なくヒダは粗い。可食である。

## カワラタケ



【タマチョレイタケ科シロアマタケ属】

白色腐朽菌のキノコ。多くの子実体が屋根瓦上に重なり群生する様からの和名。肉質は硬い。食用には不適。

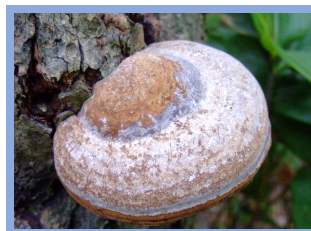
## コタニワタリ



【チャセンシダ科チャセンシダ属】

常緑性のシダ植物。シダだが細長い単葉をつける。根茎は短く葉が束のようにつく。「タニワタリ」より小型。

## サルノコシカケ(科)



「猿の腰掛」の名のとおり樹木の幹に半月状の子実体を生じる。子実体は一般に硬く丈夫。制癌剤とされていたが効能はあまりない。

## COLUMN

### <秀峰 駒ヶ岳>



吉野山の麓から望む駒ヶ岳(2019年5月撮影)

「駒ヶ岳」は、森町・鹿部町・七飯町にまたがる標高1,131mの活火山で、渡島半島のランドマークにして大沼国定公園のシンボルになっています。江戸時代には「内浦岳」と呼ばれ、現在は「蝦夷駒ヶ岳」「渡島駒ヶ岳」とも呼ばれています。

山頂部には、直径約2kmの火口原があり、西の「剣ヶ峯」、北の「砂原岳」、南の「馬の背」「隅田盛」で囲まれます。

山麓には、堰止湖である大沼・小沼などの湖沼や湿地など豊かな自然環境が形成され、一帯は1958年(昭和33年)7月1日に大沼国定公園に指定されました。

七飯町の大沼方面から見ると、横に長く、なだらかで優美な印象ですが、森町方面や鹿部方面から見ると一変して荒々しい山肌や傾斜が目につく激しい姿を見せます。

噴火活動は3~4万年前から行われてきたと考えられており、1640年(寛永17年)の大噴火以降、断続的に噴火を繰り返し、1998年(平成10年)以降は火山活動の活発化により入山が禁止されてきました。

2010年(平成22年)から、6~10月の期間に限定して、赤井川登山道入口ゲートから「馬の背」地点までの登山が可能になっています。

## シシガシラ



【シシガシラ科ヒリュウシダ属】

はっきりした形の葉を密集してつけるのでよく目立つ。斜面方向に葉が垂れ下がる様子を獅子の鬣に例えた。

# 吉野山で見られる植物の紹介<その他>

シダ

キノコ

コケ

その他

## シャグマアミガサタケ



【フクロシトネタケ科シャグマアミガサタケ属】

死亡例もある猛毒キノコ。和名はヒグマの毛に似た赤褐色を「赭熊」、傘が「編笠」であることによる。

## ジウモンジシダ



【オシダ科イノデ属】

夏緑性のシダ植物。葉の形が十文字に見えることから和名。葉は短くほぼ直立する。全体が単羽状複葉。しばしば群生する。

## スギゴケ



【スギゴケ科スギゴケ属】

茎が直立する茎葉体のコケ植物。葉の周りに並ぶ様子がスギの枝に見えることから。光合成は原系体が行うため地表が緑色になる。

## スギナ



【トクサ科トクサ属】

一般的には栄養茎を「スギナ」、胞子茎を「ツクシ」と呼び分ける。和名は地上部がスギを連想させることから。生薬や食用となる。

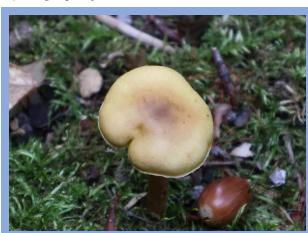
## ゼンマイ



【ゼンマイ科ゼンマイ属】

地下茎は塊状に太く短く斜めから立つ。葉は2回羽状複葉でシダとしては切れ込みが少ない。春の若芽は灰汁抜きをし食用になる。

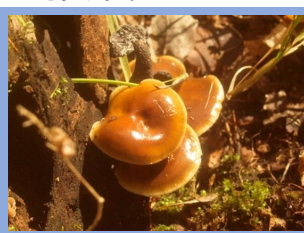
## ナラタケ



【タマバリタケ科ナラタケ属】

植物寄生菌として生活しているキノコで「ポリポリ」の名で親しまれる。植物を枯らす「ならたけ病」でも有名。

## ニガクリタケ



【モエギタケ科クリタケ属】

噛むと強い苦みがあることから。食用のクリタケに似ており誤食しやすい毒キノコのため飲み込まず味見をすることで区別できる。

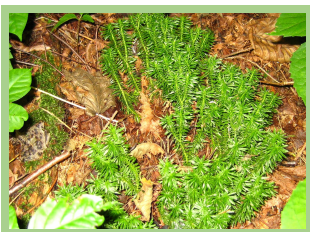
## フユノハラワラビ



【ハナヤスリ科ハナワラビ属】

ワラビの名がついているが冬緑性のシダ植物。丸い羽状複葉の栄養素と立ち上がる胞子葉をもつ。

## ホンバトウゲンバ



【ヒカゲノカズラ科コスギラン属】常緑性のシダ植物。

地下茎はなく直立する茎からなる。茎も葉も硬い。葉は細い楕円形、葉脈は主脈が1本のみ。

## マゴジャクシ



【マンネンタケ科マンネンタケ属】

霊芝と呼ばれるマンネンタケに近いキノコ。「小さな杓子」の意で、傘の中心ではなく縁に柄がつく。

## リョウメンシダ



【オシダ科カナワラビ属】

和名は「両面羊歯」で葉の表と裏の葉質が良く似ていることによる。常緑性の多年生草本。胞子は葉緑体を含むため緑色に見える。

## ワラビ



【コバノイシガマ科ワラビ属】

シダ植物の一種。春の新芽は広く食用とされるが山菜の中でも特に灰汁が強い。地下茎にデンプンを蓄える。

## COLUMN

&lt;大沼

ネイチャーセンター&gt;

大沼ネイチャーセンターには七飯町の職員が駐在しており、国定公園でありラムサール条約湿地でもある大沼を見守りつつ、自然に関する展示をしています。散歩のヒントが得られるかもしれませんので、ご来館をお待ちしております。



住所:七飯町字大沼町1024-1

開館日:月~金曜日

開館時間:9~17時

=七飯町からのお願い=

散策や観察などで近隣の山に行かれる方は、ヒグマ対策をし、十分に気をつけて入山ください。山はヒグマの住処であり、近年は確認される個体数も増えています。

ヒグマの足跡や糞などを見つけた場合は、引き返すようお願いいたします。

# 吉野山で見られる鳥類の紹介

夏鳥

冬鳥

留鳥

漂鳥

## <分類の説明>

夏鳥: 春に南方から渡ってきて繁殖し、秋に南方へ渡る

冬鳥: 秋に北方から渡ってきて越冬し、春に北方へ戻り繁殖する

留鳥: 年間を通して同じ地域に生息し繁殖する

漂鳥: 渡りほど長距離で移動しないが、地域内で小規模の季節移動をする

## <用語の説明>

托卵: 他種の巣に卵を産み、仮親に自分のヒナを育てる行動

亜種: 同じ種の中に地域によって体色や差異がある

## アオジ



ホオジロ科 L=15.5cm

夏鳥 雌  
最も身近な鳥で主に北海道で繁殖する  
昆虫や種子を好む

## アカゲラ



キツツキ科 L=24cm

留鳥 頭の赤い線が雄ないのが雌  
昆虫や木の実を好む

## ウグイス



ウグイス科 L=14~16cm

留鳥 雌雄同色  
雄の方が身体が大きい  
ホーホケキョと鳴くのは雄のみ

## エナガ



エナガ科 L=14cm

留鳥 亜種: シマエナガ  
北海道固有種  
本州は頭に黒い線がある  
種子や昆虫を好む

## オオタカ



タカ科 L=45~50cm

留鳥 厳冬期では少ない  
雌雄同色 雌の方が大きい  
準絶滅危惧種  
小動物や小鳥を捕食する

## オオルリ



ヒタキ科 L=16cm

夏鳥 雄は瑠璃色  
雌はオリーブ色で地味  
雄の鳴き声は美しい  
昆虫や木の実を好む

## カケス



カラス科 L=33cm

留鳥 亜種 ミヤマカケス  
雌雄同色 様々な鳥獣類の真似をする  
本州のとは頭部が異なる

## カッコウ



カッコウ科 L=35cm

夏鳥 雌雄同色  
他の巣に托卵する

## カワラヒワ



アトリ科 L=15cm

夏鳥 一部越冬  
種子を好む

## キジバト



ハト科 L=33cm

夏鳥 一部越冬  
本州では留鳥  
木の実、種子を好む

## キビタキ



ヒタキ科 L=14cm

夏鳥 他の鳥獣類の鳴き真似をする  
昆虫や木の実を好む

## クマゲラ



キツツキ科 L=46cm

留鳥 国内最大 頭の赤い線の長いのが雄で短いのが雌 天然記念物  
昆虫や木の実を好む

## クロツグミ



ツグミ科 L=22cm

夏鳥 雄のさえずりは大きく他の鳥獣類の真似をする  
昆虫や木の実を好む

## コゲラ



キツツキ科 L=15cm

留鳥 国内最小  
昆虫や木の実を好む

# 吉野山で見られる鳥類の紹介

夏鳥

冬鳥

留鳥

漂鳥

## シジュウカラ



シジュウカラ科 L=15cm  
留鳥 一部冬に南方へ  
雄は胸の線が太く雌は細い  
巣は樹洞やキツツキ類の古  
巣を利用する

## センダイムシクイ



ウグイス科 L=13cm  
夏鳥 雌雄同色  
さえずりはチヨチヨピーと  
鳴き方をする

## ツツドリ



カッコウ科 L=33cm  
夏鳥 カッコウ類の中では早  
く渡来する  
他の巣に托卵する

## トビ



タカ科 L=59~69cm  
留鳥 雌雄同色  
雌の方が大きい  
小動物の死骸・残飯などを  
好む

## ハイタカ



タカ科 L=32~39cm  
留鳥 一部秋に南方へ渡る  
タカ類では小型で雌の方が  
大きい  
小鳥や哺乳類を捕食する

## ハシブトガラ



シジュウカラ科 L=13cm  
留鳥 雌雄同色  
北海道固有種  
種子や昆虫を好む

## ハシブトガラス



カラス科 L=57cm  
留鳥 雌雄同色  
本来は山林に生息だが街中  
に多い  
鳴き声がカーカーと良く通  
る

## ハシボンガラス



カラス科 L=50cm  
留鳥 雌雄同色  
田畑に多く生息  
2足歩行が得意  
鳴き声がガーガーと濁る

## ヒガラ



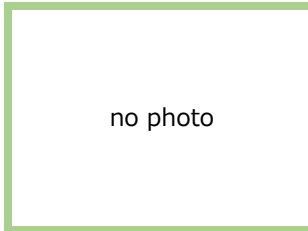
シジュウカラ科 L=11cm  
留鳥 雌雄同色  
日本産カラ類では最小  
針葉樹によく見かける

## ヒヨドリ



ヒヨドリ科 L=27cm  
留鳥 さえずりが賑やか  
一部秋は群生で南方へ渡る

## ホトギス



カッコウ科 L=28cm  
夏鳥 カッコウ類では最小  
他の巣に托卵する

## マヒワ



アトリ科 L=13cm  
留鳥・漂鳥 秋から小群で低  
地に飛来  
樹木の種子を特に好む

## ミソサザイ



ミソサザイ科 L=11cm  
留鳥 雌雄同色  
小さい体でさえずりは大き  
い  
昆虫類を好む

## ヤブサメ



ウグイス科 L=11cm  
夏鳥 雌雄同色  
鳴き声が虫の声に似て姿は  
めったに見れない

## ヤマガラ



シジュウカラ科 L=14cm  
留鳥 雌雄同色  
函館市の鳥  
巣は樹洞やキツツキ類の古  
巣を利用する

## ヤマゲラ



キツツキ科 L=30cm  
留鳥 頭の赤い線があるの  
は雄で、ないのが雌  
本州に似てるのはアオゲラ  
で固有種

# 吉野山植生観察会で確認した主な植物の花暦

■ 確認    ■ 開花  
■ つぼみ    ■ 花終了

植物名	生活形	月							
		4	5	6	7	8	9	10	
アオミズ	1草								
アカザ	1草								
アカソ	多草								
アカツメクサ	多草								
アカバナ	多草								
アキカラマツ	多草								
アキタブキ	多草								
アキノナギツカミ	1草								
アキノキリンソウ	多草								
アブラガヤ	多草								
アマニュー	多草								
アメリカオニアザミ	2草								
アメリカセンダングサ	1草								
アメリカヤマゴボウ	多草								
アレチマツヨイグサ	2草								
イケマ	多草								
イシミカワ	1草								
イヌタデ	1草								
イノコヅチ	多草								
イラクサ	多草								
ウシハコベ	多草								
ウツボグサ	多草								
ウド	多草								
ウマノミツバ	多草								
ウワバミソウ	多草								
エゴマ	1草								
エゾイラクサ	多草								
エゾエンゴサク	多草								
エゾオオヨモギ	多草								
エゾゴマナ	多草								
エゾスズラン	多草								
エゾタツナミソウ	多草								
エゾタンポポ	多草								
エゾニュー	多草								
エゾノギシギシ	多草								
エゾノキツネアザミ	1草								
エゾノコンギク	多草								
エゾノミツトソウ	1草								
エゾミズタマソウ	多草								
エンレイソウ	多草								
オオアマドコロ	多草								
オオアワダチソウ	多草								
オオイタドリ	多草								
オオイヌタデ	1草								
オオイヌノフグリ	2草								
オオウバユリ	多草								
オオカモメヅル	多草								
オオタチツボスミレ	多草								
オオチドメ	多草								
オオノアザミ	多草								
オオバギボウシ	多草								
オオバコ	多草								
オオバタケシマラン	多草								
オオハナウド	多草								
オオバナノエンレイソウ	多草								
オオバナノミノナグサ	多草								
オオバミゾホオズキ	多草								
オオハンゴンソウ	多草								
オオヤマフスマ	多草								
オオヨモギ	多草								
オオトラノオ	多草								
オククルマムグラ	多草								
オクノカンスゲ	多草								
オトギリソウ	多草								
オトコエシ	多草								
オニタビラコ	2草								
オミナエシ	多草								
ガガイモ	多草								
カキドオシ	多草								
カタバミ	多草								
カモガヤ	多草								
カラハナソウ	多草								
カラフトホソバハコベ	多草								
カラマツソウ	多草								
ガンクビソウ	多草								
カンパニュラ	多草								
キクザキイチリンソウ	多草								
キジムシロ	多草								
キツネノボタン	多草								
キツリフネ	1草								
キンズヒキ	多草								
クガイソウ	多草								
クサノオウ	2草								
クサフジ	多草								
クマイザサ	ササ								
クモキリソウ	多草								
クルマバソウ	多草								
クルマバナ	多草								
クルマムグラ	多草								
クロミノエンレイソウ	多草								

# 吉野山植生観察会で確認した主な植物の花暦

■ 確認      ■ 開花  
■ つぼみ      ■ 花終了

植物名	生活形	月							
		4	5	6	7	8	9	10	
ケチヂミザサ	多草								■
ゲンノショウコ	多草		■	■	■	■	■	■	■
コウソリナ	2草	■	■	■	■	■	■	■	■
コケイラン	多草								
コシオガマ	1草							■	
コナスビ	多草	■	■	■	■	■	■		
コハコベ	2草	■	■	■	■	■	■	■	■
ゴマノハグサ	多草			■					
コンロンソウ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
サイハイラン	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
ササバギンラン	多草		■	■					
サラシナショウマ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
サワアザミ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
サワギク	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
サワヒヨドリ	多草							■	
シャク	多草		■	■	■	■	■	■	■
ジャコウソウ	多草							■	
シヤマギク	多草			■					
シロザ	1草							■	
シロツメクサ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
スイバ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
ススキ	多草							■	■
スズメノカタビラ	1~2			■					
スミレサイシン	多草							■	■
セイトカアワダチソウ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
セイヨウタンポポ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
ダイコンソウ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
タカアザミ	2草							■	
タガネソウ	多草							■	
タチカタバミ	多草							■	
タチギボウシ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
タチツボスミレ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
タニギキョウ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
タニソバ	1草	■	■	■	■	■	■	■	■
タニタデ	多草								
タネツクバナ	2草		■	■	■	■	■	■	■
チゴユリ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
ツクバネソウ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
ツボスミレ	多草		■	■	■	■	■	■	■
ツユクサ	1草							■	■
ツリフネソウ	1草							■	■
ツルニンジン	多草							■	
ツルリンドウ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
テングスミレ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
トチバニンジン	多草								
トモエソウ	多草				■				
トリアシショウマ	多草		■	■	■	■	■	■	■
ナガバツメクサ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
ナガボノシロワレモコウ	多草				■	■	■	■	■
ナギナタコウジュ	1草							■	
ナズナ	2草	■	■	■	■	■	■	■	■
ニシキゴロモ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
ニンソウ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
ノコンギク	多草								■
ノボロガクビソウ	多草						■		
ビネチドリ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
ノブキ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
ノブドウ	多草				■	■	■	■	■
ミノツツリ	2草	■	■	■	■	■	■	■	■
ミノフスマ	2草				■				
ハエドクソウ	多草				■	■	■	■	■
ハッカ	多草			■					
ハナタデ	1草							■	■
ハナニガナ	多草				■	■	■	■	■
ハルジオン	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
ハルタデ	1草								■
ハンゴンソウ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
ヒトリシズカ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
ヒメオドリコソウ	2草	■	■	■	■	■	■	■	■
ヒメカンスゲ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
ヒメジョオン	2草	■	■	■	■	■	■	■	■
ヒメシラスゲ	多草				■	■	■	■	■
ヒメスイバ	多草				■	■	■	■	■
ヒメスゲ	多草				■	■	■	■	■
ヒメヘビイチゴ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
ヒヨドリバナ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
ヒレハリソウ	多草								■
フクジュソウ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
フタクサ	1草							■	■
フタナ	多草				■	■	■	■	■
フタマタマンテマ	1~2				■				
フタリスズカ	多草		■	■	■	■	■	■	■
フデリンドウ	2草	■	■	■	■	■	■	■	■
ベニバナイチヤクソウ	多草				■	■	■	■	■
ヘビイチゴ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
ヘラオオバコ	多草							■	■
ホウチャクソウ	多草		■	■	■	■	■	■	■
ホオズキ	多草								■
ホソバナツルリンドウ	多草							■	
マイヅルソウ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■

# 吉野山植生観察会で確認した主な植物の花暦

■ 確認    ■ 開花  
■ つぼみ    ■ 花終了

植物名	生活形	月							
		4	5	6	7	8	9	10	
マツヨイセンノウ	多草			■	■	■	■	■	■
マムシグサ	多草		■	■	■	■	■	■	■
マルバヒレアザミ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
ミズ	1草							■	■
ミズタマソウ	多草							■	■
ミズヒキ	多草							■	■
ミゾソバ	1草							■	■
ミゾホオズキ	多草		■	■	■	■	■	■	■
ミチヤナギ	1草							■	■
ミツバ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
ミツバツチグリ	多草		■	■	■	■	■	■	■
ミツバヒヨドリ	多草							■	■
ミツバフウロ	多草							■	■
ミツモトソウ	多草			■	■	■	■	■	■
ミネアザミ	多草							■	■
ミミコウモリ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
ミミナグサ	2草	■	■	■	■	■	■	■	■
ミヤマイラクサ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
ミヤマエンレイソウ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
ミヤマスミレ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
ミヤマトウバナ	多草							■	■
ミヤマナルコユリ	多草		■	■	■	■	■	■	■
ミヤマニガウリ	1草							■	■
ミヤマヤブタバコ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
ムラサキケマン	2草	■	■	■	■	■	■	■	■
メドハギ	多草								■
メマツヨイグサ	2草							■	■
モミジガサ	多草							■	■
ヤエムグラ	2草	■	■	■	■	■	■	■	■
ヤブジラミ	2草		■	■	■	■	■	■	■
ヤブタバコ	2草							■	■
ヤブタビラコ	2草				■	■	■	■	■
ヤブニンジン	多草		■	■	■	■	■	■	■
ヤブハギ	多草							■	■
ヤブマメ	1草							■	■
ヤマハッカ	多草							■	■
ヤマニガナ	2草		■	■	■	■	■	■	■
ヤマハハコ	多草							■	■
ヤマブキショウマ	多草							■	■
ユキザサ	多草	■	■	■	■	■	■	■	■
ヨツバヒヨドリ	多草							■	■
ヨブスマソウ	多草						■	■	■
ヨモギ	多草							■	■
ルイヨウショウマ	多草		■	■	■	■	■	■	■
ルイヨウボタン	多草	■	■	■	■	■	■	■	■

## COLUMN

### <木の測り方>

国有林の立木を伐採や売り払いをするとき、また、森林蓄積の調査を行うときには、樹種や木の量、材質などを調査します。

木の量は、材積(単位:m3)で表し、材積を計算するためには木の直径と高さを測ります。

#### ① 木の直径を図る

木の直径は、木の山側に立って根元から、北海道では1.3mの高さ(胸高直径)を測定器具で測り、偶数で表します。測定器具は通常「輪尺(りんじゃく)」と呼ばれるノギスのようなもので測ります。輪尺で測ることができない大木などは、周囲を測って直径を出す「直径巻尺」を使います。

#### ② 木の高さを図る

木の高さ(樹高)は、伸縮できるポール(「測棒(そっかん)」)を立てて直接測る方法や、「測高器(そっこうき)」と呼ばれる道具を使う方法、また、木の根元と梢の角度を測り、計算によって求められるレーザー測定器を使う方法があります。

近年は、3Dレーザーの技術を使って森林データの解析を行い、そのデータからも多くの情報を得ることができるようになっています。



左の写真:レーザー測定器で樹高を測定  
 右の写真:直径巻尺を使い直径を測定  
 (2023年5月20日 植生観察会)



















# 大沼自然豊かな森づくり協議会

## 構成組織

### 1 団体

大沼漁業協同組合

大沼の水を考える会

北方森林鳥類調査室 クマゲラ研究会

北海道国際交流センター 大沼マイルストーン22

大沼地区連合町内会 大沼公園親和会

函館地方国有林退職者 緑の募金推進協議会

### 2 個人

北海道アウトドアガイド(自然) 木村マサ子

### 3 関係行政機関

渡島総合振興局 産業振興部 林務課

七飯町 農林水産課

七飯町 環境生活課

北海道森林管理局 函館事務所

北海道森林管理局 渡島森林管理署

北海道森林管理局 駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター

## あとかき ~ 調査に参加して ~

2004年から北海道森林管理局で、大正時代から昭和時代にドイツウヒやカラマツ・トドマツを植樹した針葉樹の森を、針広混交林に改良する「森林再生のモデル事業」を始めたことで、「自然再生検討委員会」に参加しました。

毎年数回の現地の再生活動に参加して、移植したミズナラ・トチノキなどの苗の間で「多種のスミレやエンレイソウ」が群落になって咲いていました。足元に季節で開花する草花を記録していると、確認する植物によって、吉野山の環境を知る気がしました。

麓では、園芸種(カンパニュラ)やエゴマなどから畑の時代もあったかと想像しました。枯れ木倒木跡が明るくなると、周辺の雑草畑や牧草地からなのか、帰化植物も増えていました。

アマガエルやアズマヒキガエルが確認されると、どこかに産卵地がないかと沢を下り、音を立てて水が流れているのを見ました。少ない数でありながらも、植物たちが環境で棲み分けていることも知らされました。

植生観察会は2015年から「森の変化を知るために」と始めて10年が経ち、野鳥など各専門の方々の参加もあって、今回まとめることができ感謝しております。

記録された植物は、観察するコースを毎回変えていることや、ハチが出たり、ササが深くなり入れなくなったり、コロナ期間もあって、再度確認できないものもありますが、きっと今も季節で咲いて、実を成らせ、種を飛ばしたり、野鳥に食べられて森に撒かれながら咲き続けていることを想像しております。調査記録した動植物は、将来の大沼湖畔に住む人たちに、吉野山の環境を知らせることになるはずです。

吉野山スキー場跡地は北斜面で、本州のブナ林地帯から見ると、水平分布的にも垂直分布的にも高山に当たるため、道南の広葉樹の森になるには相当の時間がかかる気がします。



古老が話していた「人が壊した森は、人が関わって戻すこと」を思い出します。

私たちが関わった「吉野山モデル事業」の広葉樹林化は細やかな面積ですが、「山の保水性を高めて森を育て、地中に滲みだした水は養分を含んで大沼湖畔に流れ出る。水草を育て湖水に棲む多様な生物をも育て、ジュンサイが育つ湖水には、フナやワカサギなどを繁殖させ、今日以上に湖畔が栄える仕組み」を伝えられたらと願っております。

北海道アウトドアガイド(自然)  
木村マサ子



<歴史的に伝えたい>

- ① 2010年5月、ロシアのコマロフ植物学研究所上級研究官のクラボフスカヤさんが、「世界的なロシアの植物学者であるカール・ヨハン・マキシモヴィッチが1861年に大沼湖畔を調査した現場を確認したい」と訪れ、その結果、150年前から自然の豊かさは変わらないことを知らされる。
- ② エンレイソウの種類も多く、2000年頃、吉野山湖畔でエンレイソウの研究家の鮫島惇一郎先生によって「ヒダカエンレイソウ」が確認される。

木村 記

本書に掲載した「吉野山で見られる植物の紹介」について、説明は「新北海道の花」をはじめとした各種図鑑や「ウィキペディア」などを参考にし、写真は、これまで実施した植生観察会で撮影したものを中心に、当協議会会員の皆さまから提供いただいたものを掲載しています。

また、「吉野山で見られる鳥類の紹介」について、説明は、「北海道 野鳥図鑑」及び「フィールドガイド 日本の野鳥」を参考にし、写真は、「日本野鳥の会 道南桜山」から提供いただき、撮影場所については吉野山のほか、北海道内で撮影されたものを掲載しています。

したがって、掲載した写真等について錯誤があった場合はご容赦いただくとともに、その際は事務局までお知らせください。

また、本書を複写・使用する場合についても事務局までご相談ください。

#### < 参考文献 >

- 『新北海道の花』（北海道大学出版会 2007年）
- 『山溪カラー図鑑 野に咲く花』（山と溪谷社 2013年）
- 『山溪カラー図鑑 山に咲く花』（山と溪谷社 2013年）
- 『山溪カラー図鑑 日本の樹木』（山と溪谷社 1993年）
- 『北海道 樹木図鑑』（亜璃西社 1995年）
- 『北海道 野鳥図鑑』（亜璃西社 2019年）
- 『フィールドガイド 日本の野鳥』（日本野鳥の会 2015年）
- 『日本における帰化植物』（落陽堂 1918年）
- 『牧野富太郎とマキシモヴィッチ』（高知県立牧野植物園 2000年）
- 『蝦夷地の中の日本』（八木書店 1979年）
- 『マキシモヴィッチと須川長之助』（岩手植物の会 1996年）
- 『新版 北海道の植物 野の花(上下)』（北海道新聞社 1990年）
- 『草木をたずねて：函館付近の植生』（函館植物研究会 1998年）
- 『新 原色図譜 エンレイソウ属植物』（北海道大学出版会 2023年）

#### < 大沼自然豊かな森づくり協議会 事務局 >

北海道森林管理局 駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター

〒040-0032

函館市新川町25番18号 函館地方合同庁舎6階

電話：0138-86-6897


(前略)

大沼の沼の奥の山を よしの山という  
よしの山という名を聞いただけでも 故郷が懐かしく思い出される  
沼の周囲は三、四里もあろうか  
水辺に茂る木々が湖水に映えて美しい

(中略)

左の方に小沼があり 湖上に小島が三つ四つあり  
樹木が生き生きと茂り 岩下の青苔に雨が降りかかる様は  
今の象瀉よりも遥かにすぐれた眺めであると思う

『北遊雑誌』(一八一〇年) より



大沼自然豊かな森づくり協議会  
令和8年3月発行